

フロンティアヘルスサイエンス学域 修士論文書式

1. 原稿の分量および形式は、下記のとおりとする。
 - (1) 原稿はパソコンまたはワープロを用いて作成する。
 - (2) 和文原稿は、A4 版横書き縦 40 行・横 40 字の 1,600 字分を 1 ページとし、図、表、参考文献を含み、合計が 100 ページ以内とする。
 - (3) 英文原稿は、A4 版横書きダブルスペースで作成し、図、表、参考文献を含み、合計が 200 ページ以内とする。
 - (4) 本文で基本的に使用するフォントは、日本語用は MS 明朝、英数字用は Century、サイズは 10.5pt とする。タイトルなど必要に応じて、適宜それ以外のフォント及びサイズを使用しても良い。
 - (5) 図および表（パソコンまたはワープロを用いて作成）は、それぞれ本文中の適切な箇所に挿入する。
 - (6) 印刷書式は、マージンを上端 30mm、下端 20mm、左端 35mm、右端 25mm とする。
 - (7) 原稿の下中央に、ページを入れる。

2. 原稿は、**タイトルページ、要旨とキーワードのページ、緒言、対象と方法、結果、考察、参考文献**、（必要であれば、**謝辞**）の順に記載する。
 不明な点は、医学雑誌編集者国際委員会（International Committee of Medical Journal Editors: ICMJE）による「生物医学雑誌への統一投稿規程」（www.icmje.org/）を参照する。

[参考] JCMJE の生物医学雑誌への統一投稿規程の日本語翻訳：
 『生物医学雑誌への統一投稿規程：生物医学研究論文の執筆と編集』③（2003 年 11 月改訂版）
 医学雑誌編集者国際会議. 医学の歩み: 210(13), 1055-1061, 2004.
 (<http://www.ishiyaku.co.jp/magazines/ayumi/urm.cfm> から、ダウンロード可能)

- (1) **タイトルページ (Title Page)**
 論文タイトル（和文）および Title（英文）、氏名、研究科・課程・系・分野の名称、指導教員の氏名を記載する。
- (2) **要旨とキーワード (Abstract and Key Words) のページ**
 和文の要旨（1000 字以内）、英文の Abstract（300 words 以内）を記載する。その研究の背景的情報、目的、基本的手順、主な所見と結論を簡潔に記載する。続いて、論文の主旨を反映する、キーワード（5 語以内）と Key Words（5 words 以内）を記載する。
- (3) **緒言 (Introduction)**
 研究の内容や背景的情報を記載する。
- (4) **対象と方法 (Subjects/Materials and Methods)**
 研究の実施にあたり使われた研究対象者（ヒト、動物）およびデータを収集するための研究方法を記載する。統計（Statistics）的手法を使用した場合は、使用したソフトウェアなどを明記する。研究計画の倫理的な問題について、審査を受けて承認されている場合は、その旨を記載する。
- (5) **結果 (Results)**
 本文、図（Figures）、表（Tables）を用いて、研究で得られた結果を論理的に提示する。図は本文に引用された順に従い連番を振り、それぞれに簡潔なタイトルと説明文（Legends for Figures）をつける。大きさは内容が判読可能なものでなければならない。図の中で記号、

矢印、番号または文字を使用した場合は、説明文にそれらを明示して、説明を加える。
表は本文に引用された順に従い連番を振り、それぞれに簡潔なタイトルをつける。説明的な内容は、脚注に記載する。

(6) 考察 (Discussion)

研究における新規で重要な側面ならびにそこから導き出される結論について述べる。研究結果を関連研究と比較対照し、研究の限界、将来の研究などに対する展望について記載すると良い。

(7) 参考文献 (References)

- (a) 本文中で最初に言及された箇所の右肩に、順番に従って 1)、2)・・・の連番を付ける。
- (b) 参考文献のセクションに、それぞれの文献を順番に従い、下記の形式で記載する。英字、記号およびスペースはすべて半角を使用する。
- (c) 雑誌の場合
“著者名: 題名. 雑誌名, 巻(号): 引用ページ, 発行年.” の順番に記載する。

[例]

- 1) 井村恒郎: 知覚抗争の現象について. 精神経誌, 60: 1239-1247, 1958.
- 2) Rose ME, Huerbin MB, Melick J, Marion DW, Palmer AM, Schiding JK, et al.: Regulation of interstitial excitatory amino acid concentrations after cortical contusion injury. Brain Res, 935(1-2): 40-46, 2002.

(d) 単行本の場合

“著者名: 題名. 監修あるいは編集者, 書名, 版数: 発行地名, 発行社名, 引用ページ, 発行年.” の順番に記載する。

[例]

- 3) 八木剛平, 伊藤斉: 躁鬱病. 保崎秀夫編著, 新精神医学: 東京, 文光堂, 282-306, 1990.
- 4) Meltzer PS, Kallioniemi A, Trent JM: Chromosome alterations in human solid tumors. In: Vogelstein B, Kinzler KW (eds), The genetic basis of human cancer: New York, McGraw-Hill, p.93-113, 2002.

- (e) 著者が6名までは全員を連記する。7名以上の場合は、6名まで連記の上、○○○他、あるいは○○○ et al. としても良い。
- (f) 雑誌名は略称で表記する。洋雑誌は Index Medicus が用いている略称、和雑誌は医学中央雑誌 (医中誌) で採用している略称、あるいは当該雑誌が使用している略称を使用する。
(Index Medicus の雑誌名を pdf ファイルでダウンロードできる ftp サイト:
ftp://nlmpubs.nlm.nih.gov/online/journals/ljiweb.pdf)

(8) 謝辞 (Acknowledgement)

(9) 略号 (Abbreviations)

標準的な略号のみを用いる。タイトルには略号の使用を避ける。初出の際には、略号の元の形の用語を先に記載する。

3. 提出論文の体裁

原稿を印刷したものを、製本して提出する。(簡易製本でも良い。)